

記念講演 II

AI時代の働き方改革

出口 治 明

立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長
学校法人立命館副総長・理事

僕はAPUという大学の学長を務めているが、日本でほぼ初めての国際公募で選任された。APUは日本の私大でトップ5に入っている大学であり、APUの上位には慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学、国際基督教大学がランクされている(注1)。これらの伝統ある大学に対して2000年に開校したAPUがトップ5にランクされているのは、ミシュランの三ツ星評価のように大学の国際評価機関から高い評価を得ているからである。一つは日本では4校しか認証を受けていないAACSBという評価機関からで、もう一つは2校しか認証を受けていないTedQualという国際認証である(注2)。ちなみにミシュランと同様に、評価機関からの評価を得ることは大変でAACSBでは約8年かかっている。

学生数は6,000人であるが、半分の3,000人が90の国や地域から来ている。日本人は春に日本語で試験を受けて入学し、外国人は秋に英語で試



験を受けて入学してくる。9月の入学式では新生代表のバルバドスの女性が、立派な決意表明を行いとても感激した。1回生は原則全員寮に入居し、日本人と外国人とが同室で寝起きを共にする。先生も半分は外国人で、二つの学部のうち国際経営学部は学部長が日本人で、副学部長はドイツ人、カナダ人、バングラデシュ人、フィリピン人である。アジア太平洋学部は学部長が中国人で、副学

(注1) 英国教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション (THE) による世界大学ランキング2018日本版による。

(注2) AACSB (The Association to Advance Collegiate Schools of Business) は、マネジメント教育の国際的な認証評価機関の一つ。世界に約16,000あるビジネススクールの中でもわずか5%しか認証校となっていない。また、TedQualとは、国連世界観光機関 (United Nations World Tourism Organization : UNWTO) が実施する世界水準の観光学教育を行う高等教育機関に与えられる認証。